

医療法人 光晴会病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題	糖尿病に認知症を合併した症例への地域包括ケアも含めた自立支援への取り組み
所属(診療科等)	看護部 外来
研究責任者 (職名)	福田 康恵(看護師)
研究目的	糖尿病外来で認知機能が疑われる症例に対し、認知症看護認定看護師が介入、院内外の多職種と連携する取り組みを報告する。
調査データ 該当期間	2018年11月～2022年8月
研究内容	<p>結果：1) MMSE$22.2 \pm 4.2/30$点でも受診忘れや内服忘れ、食事管理不足が存在したが、介入により解消した。2) インスリン治療が欠かせない5症例においては持効型溶解インスリン製剤＋一週間製剤 GLP-1 受容体作動薬やゾルトファイ配合注に変更し、ほぼ一日一回注となり、在宅スタッフの支援時間に合わせたインスリン療法が可能となり、継続できた。3) 血管管理不良の原因は服薬忘れや、食事管理不足で、多職種で服薬とインスリンの見守りや施行、また食提供を支援し、HbA1c$9.72 \pm 3.21\% \rightarrow 7.33 \pm 1.25\%$ ($p < 0.05$)へ改善した。4) 在宅訪問により認知機能低下からの日常生活の支障を把握でき、自立支援に向けた取り組みができた。5) 2名は認知症初期集中支援チームと協働し、集中的に在宅を訪問することで、患者の意識づけとなった。生活が安定し、抑うつ症状が改善して MMSE が正常値となった。</p> <p>総括：糖尿病外来の要請に DCN が介入し、在宅療養の問題点を見出しながら、在宅スタッフとの地域包括ケアシステムを構築した。治療の簡略化により、在宅スタッフによる管理が可能となった。食支援や生活の場の提供などにより、自立できた患者も存在した。在宅へ出向き、地域スタッフと協働することで、自立支援に繋がった。</p>
個人情報の 取り扱い	患者、家族が特定されないよう配慮し、口頭にて説明し理解を得た。

本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ	病院代表 : 095-857-3533 (内線 : 2215) 担当者 : 総務課 (戸田)